



ファイバーシティ

ダークファイバー

ダーク 暗いファイバーというのは、光ファイバーの意
味だ。ダークといっても腹黒い意味ではない。光ファイ
バーを通信に使うときには光源を用いる。つまり通信回
線として使うファイバーは明るい。それに対して光ファイ
バーそのものを提供する場合を、ダークファイバーという。

最近のインターネットの世界では、あらかじめ敷設さ
れたダークファイバーを借りて利用する形態が目立って
いる。しかし、日本ではあまり例を見ない。欧州では
普及し始めているというのだが、さて実態はどのような
ものだろう。

ストックホルムのビルの地下

スウェーデンの首都ストックホルムの街は美しい。落
ち着いた感じがする。ちょっと寂しいという人もいる。秋
になった途端に気温が下がり、高緯度のために夜が長
くなる。その街並みの一角にある雑居ビルの地下室を
見せてもらった。

その雑居ビルは古い建物ようだ。地下には電話回
線の配線と電源ケーブルなどがある。その横に新しい穴
が開いている。穴に通っているのが光ファイバーである。
このビルはStokab (Jump01) のオフィスから数軒隣にある。

このStokabという会社が光ファイバーを敷設してい
る。会社はストックホルム市とストックホルム郡が共同で
設立したという。資料にはダークファイバープロバイダー
と書いてある。誰がダークファイバーを借りるのかと質
問すると、まず通信会社だという。欧州のほとんどの通
信会社がストックホルムに進出しているためだ。ほかに
は銀行や保険会社からの引き合いもあるという。もちろ
ん市役所の仕事にも使う。

ミラノの街角

一気に南下してイタリアのミラノに向かう。こちらは南
欧の風景である。気温も高い。少し汗をかきながら街
路を歩く。歩道に網状の鉄蓋があって、道路の下を覗
ける場所がある。ちょうど1本の緑色のケーブルが見え
る。「あれが光ファイバーですよ」。



ミラノ市のファイバーはMetrowebという会社が敷設
している。この会社もダークファイバープロバイダーと書
いてある。同社のウェブサイト (Jump02) に紹介されている
ファイバーの敷設地図を見ると、ミラノの全域がカバーさ
れている。これは想像以上に大規模だ。

MetrowebとFastweb (Jump03) という会社が共同歩
調で事業を展開している。このグループでは家庭用に、
電話・インターネット・VOD(ビデオオンデマンド)を複合
したサービスを月額50ユーロ(約5,000円)で提供する
という。そのサービスの例をインターネットカフェで参観
した後、実際に建物の上の階にある個人住宅にケー
ブルを引き込む工事を見せてもらった。この会社にもミ
ラノ市の電力公社が出資している。ただしストックホル
ムよりは民間指向のようだ。

ファイバーが先か、議論が先か

日本でも光ファイバーは相当に敷設が進んでいるとい
う。ただし上の2都市のようにダークファイバーを提供す
る仕組みは、まだほんの序の口で、ほとんど利用され
ていない。

日本では新規のサービスを始める前に、多くの議論
を重ねる必要がある。皆が納得してからスタートするか
らだ。ダークファイバーを提供しても、誰も使わないの
ではないか? そうい疑問に最初に答えなければならない。
議論の材料として、欧州の2つの都市の例は、大
いに参考になる。

もちろん、ストックホルムでもミラノでも十分に議論を
交わしてスタートしたはずだ。それに市役所が関係して
いるからといって、事業の成功が約束されたわけでは
ない。ダークファイバープロバイダーの今後は、利用者の
動向に依存している。それを承知で、先に進む国、あ
るいは地域がある。

(Jump01) www.stokab.se (Jump02) www.metroweb.it
(Jump03) www.fastweb.it

Illustration: Harada Kaori



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp